

地域自主組織『支え合いのまち御来屋』

みんなの壁画プロジェクト

支え合いのまち御来屋は活動方針のひとつに『交流の促進』を掲げています。

新型コロナウイルス禍でイベントの開催が難しい中ではありますが、御来屋の子どもたちに地元での思い出を作ってもらいたいという思いから、コロナ対策に留意しながら『みんなの壁画プロジェクト』を実施しました。

現在、御来屋港ではいろいろなアートが描かれており、皆さんもご覧になったことがあるかもしれません。今回は、プロのアーティストの作品です。今回は、名和小学校と



▲皆で手分けして

名和中学校の生徒さんに壁画のアイデアを募集し、それを元に町内在住のアーティスト朝倉弘平さんが構成し、デザインしました。何枚もある

大きな板に下絵を写し、10月18日と25日の両日、『ペイントワークショップ』を開催。参加者を募ったところ、延べ200名もの親子に参加していただくことができました。指定された箇所にカラフルな色をのせていく作業は、子どもたちはもちろんのこと、大人も童心に返って夢中で絵筆を運び、絵具でボディーペイントのようになってしまう人も。楽しい時間はあっという間に過ぎて行きました。

その後、まちづくり委員会を中心に仕上げを行い、御来屋港に壁画として設置し、11月15日に完成お披露目を開きました。大きな大きな壁画は一際目立ちます。子どもたちの夢やアイデアがたくさん込められた作品を観に、ぜひ御来屋へ足をお運びください。

【朝倉さんのコメント】

壁画のタイトルは『海と海の子

ども』。絵のコンセプトは、名和中学校のみなさんから寄せられた260を超えるアイデアを元にしました。

御来屋の未来を担う子どもたちのアイデアと、御来屋を思いながら描いた「みんなの壁画」です。



▶朝倉さんによる最後の仕上げ

【アート担当 島田さんのコメント】

ある日、名和農業者トレーニングセンターで、孫に時計台にあるタイルの絵の中に「あなたのお母さんの描いたものもあるよ」と教えました。すると喜んで探し、「お母さんが小学生の時に描いたの？」と聞いたのです。そこでハッとしました。自分達が生まれ育った場所に思い出のしるしがあれば、いつか自立し地域を離れても故郷に帰れば大切な、なつかしい思い出が残っている。そして、

それを自分の子どもへ伝えていけば無限の場所が生まれるのではと。そんなきっかけからこの企画を立ち上げました。

参加してくれた人を始め、朝倉弘平さん、まちづくりのメンバー全員で愛いっばいの壁画ができました。

今後もイベントに参加して頂き、皆さまの交流と故郷への愛着が育ちますように願っています。本当にありがとうございました。



▲皆で手分けして

◆問い合わせ先

支え合いのまち御来屋事務局
(御来屋漁村センター)

☎090・7139・1766

(大黒)

✉sasaai.mikuriya@gmail.com